

1. 新開地駅 <新開地エリアと落語の殿堂・神戸新開地喜楽館>

新開地駅近くの新開地エリアは、「東の浅草、西の新開地」と呼ばれていたように、独特の味わいを持ったエリアとして知られています。落語の寄席として神戸松竹座もあり大いに賑わっていましたが、現在は閉館しています。しかしながら、今でもここには映画館、大衆演劇場、アート施設、ライブハウスや老舗の飲食店、こだわりのお店などが集まっており、かつての賑わいを取り戻そうとしています。

このエリアに、落語の殿堂としての「神戸新開地・喜楽館」があります。上方落語協会会長の「神戸あたりにも上方落語の定席を」との発言に触発された、新開地の商店街の人が、落語協会に手紙を送り、協会が即座に新開地の現地調査を行って、新開地の賑わいや実現の可能性等を調査しました。このことをきっかけとして、資金面等で紆余曲折がありました。国、兵庫県、神戸市の援助や関係者の熱意により、2018年に、落語の殿堂としてオープンしました。新開地の喜楽館の名称は公募により選定されました。大阪の天満天神繁盛亭と同様に、上方落語の定席の一つとなっています。さらに、上方落語ばかりでなく、東西の落語や講談、浪曲などの演芸のほか、音楽、ダンスなどいろいろと楽しむことができる演芸場としてたくさんの人に愛されています。（杉岡 良吉 記）



喜楽館での落語の様子 喜楽館ホームページより



新開地エリアの賑わい